

○夕陽会創立九十周年記念行事を目前にし、会員諸兄弟によるご支援と協力をいただき、その諸準備が順調に進められておりますことについて心より感謝申し上げますと共に、会員一人一人の母校に寄せ



# ◇巻頭言◇

## 九十年の歴史を基礎として

会長 川島孝夫

(昭和31年卒)

る想いの深さとその強さに感動させられる日が続いております。

わが同窓会は記録によると大正七年三月、第一回卒業生によって初代和田喜八郎校長を会長に「本会八函館師範学校卒



第194号

全面改修なった夕陽記念館

中、会員各位から色々な貴重な情報が寄せられています。この寮歌の作者についての情報も寄せられました。作者については既に会報百号（昭和四十九年六月発行）に「寮歌」のタイトルで、作者ご本人の寄稿による寮歌作成の経緯等が紹介されています。それによると二回生の桑山誠一・志賀剛氏の両名が「国漢指導の小林教官のご指導で作詞し、曲は東京高師水泳部歌を参考に作成した」と仔細に述べられています。ポプラの太木に取り囲まれ風にそよぐ木々の葉の間から垣

見える校舎、まさに亀田の森の情景であり、寮の窓から遠くに目を転じれば、函館湾内の静かな海上に浮く大小の船々に夕日が一日の最後の光を浴びせるとき、若人達が声高らかに若き血を滾らせ、風の如く声を張り上げた歌声が今でも聞こえてくるような気がします。

また、九十周年記念の事業として夕陽記念館（北方教育資料館）改修・整備が計画されたことは、北海道近代教育の礎を築いて来た証とし、十年後の夕陽会創立百周年に向かって大学構内にその姿を存続させることが出来たことは嬉しい限りです。会報一六五号の巻頭言で昭和十九年卒で本部監査をお勤めいただいた八木幸夫氏は「なつかしの夕陽記念館に憩う」と題し「卒業証書を手に、この玄関前で記念写真を撮り、戦雲急を告げるなか勇躍各地の軍門に赴いた五十四年前の日の思い出が、一瞬よみがえる」と述べられておられます。こうした多くの会員の思い出の残る記念館に再び新しい命が与えられ、未永く母校の足跡を伝える同窓の絆の拠りどころとなってくれることを期待したいものです。

歴史は過去の足跡を示すものだけでなく、進むべき道を決定する為の基礎とならなければならぬものと思います。母校は大学改革の大きな流れの中、痛みを負いながら、地域の知の拠点となるため、新しい世紀にふさわしい大学に生まれ変わる努力を続けています。夕陽会も九十年の歴史と伝統を基礎とし母校と共に新しい出発点に立つ時だと思えます。六月二十一日、九十周年記念行事には一人でも多くの会員の参加をいただきこのスタートを祝いたいと願っているところです。

# 栄誉に輝く同窓



○瑞宝双光章

## 教育の人間化を求めて

北見市 増子信吉 (昭和23年卒)

私は勤めの上で、他の模範になつたり著しい功績を挙げた覚えもなく、却つて何かと「力」不足を嘆く体験ばかりしてきました。ですから栄典制度は私と関係のないものと認識してしましたので叙勲の内示があつた時の驚きや戸惑いは極めて大きく重いものであります。

「函師」入学は昭和十七年、翌年学制改正で新制「北二師」となり、五年間で教職の一般的・専門的な教育課程を修得する予定でした。しかしその前半は聖戦完遂のための勤労働員が恒常化、長期化。



○瑞宝双光章

## 回顧

札幌市 三浦寛 (昭和23年卒)

この度、図らずも平成十九年秋の叙勲授受の栄に浴しました。早々、夕陽会長始め、多くの方々から鄭重な祝意を戴き心から厚くお礼申し上げます。

思えば母校卒業以来空知管内で四市二町・四十年に亘りその職責を果たす事ができた事は偏に、よき人との出会いの故だと思っております。私は生来愚鈍頑固な性格で、特に某市・某町の学校では、単位時間の正常化、道徳教育の実施、卒業式・入学式での国旗掲揚等々、その都度猛烈な先生方の対抗戦術を受けながら、学校教育正常化の為に頑として、ぶ



○瑞宝双光章

## 耐え難きを耐え、忍び難きを忍び

札幌市 佐藤照彦 (昭和26年卒)

はじめて皇居に入った私は、陛下のすぐそばで謁見し、お言葉を賜りました。

陛下は、点滴をされてすぐ式場にのぞまれた為、少し体が左右に揺れておりました。それを心配した人達が僅かにざわめいた時、キッと見られた陛下の眼差しは、一瞬鋭く、この国の天皇の厳しさを御見せになりました。

「積年国のため、社会のため……」の御言葉は、遠く予科練時代の戦友や出撃した特攻隊員の顔が浮かびあがりました。

絨毯はすり切れ、壁面の飾りは少し汚れておりましたが、私の心は、熱い想い



○瑞宝双光章

## 夕陽と私の絆

函館市 津坂忠 (昭和28年卒)

この度はからずも平成十九年秋の叙勲授受の栄に浴しました。

早速夕陽会長をはじめ同窓の方々から鄭重なご祝意を戴き、心から深く感謝と御礼を申し上げます。

釧路の鳥取生まれ。憧れて函師を選び母校卒業以来、三十三年間の教職生活は顧みまずと夕陽のよき先輩・同僚・後輩に恵まれての勤務でした。又行政職にあつた胆振教育局では、教育課程伝達講習会で、北教組の反対阻止行動に辛酸をなめたそんな中でも北教組夕陽の仲間の温かい気配りを忘れることはできません。

これから健康に留意して会員として微力を尽くして参りたいと思います。終わりになりましたが夕陽会の一層の発展を切にお祈り申し上げます。





○瑞宝双光章

## 心から感謝をこめて

函館市 田中 俊也

(昭和29年卒)

平成十九年度、秋の叙勲に際しまして十一月八日、国立劇場において文部科学大臣から勲記勲章の伝達を受け、教育功勞により瑞宝双光章の拝受の榮に浴し、身に余る光榮と心から感謝をいたしております。

ひきつづき、皇居に参内して、豊明殿において、身近に天皇陛下から心あたたまる激励のお言葉をいただき、拝謁の榮を賜りました。

皇居における豊明殿は、緑濃き樹木の深遠な彩りが目に染みて、荘厳な氣品に包まれ、その美しさが心に残り、感銘のひとつとなりました。

この受章は、ひとえに夕陽会の会長さ



○中学校教育六十年記念教育功勞者表彰

## 皆様のご支援に感謝して

函館市 札内 征男

(昭和37年卒)

この度、中学校教育六十年を記念して、文部科学省教育功勞者表彰が行われ、はからずもその榮に浴することができました。身に余る喜びであり、これもひとえに多くの皆様のご支援のたまものと厚く感謝申し上げます。

昭和二十二年、戦後の混乱期の中で新制中学が発足して、六十年が経ちました。その間、児童生徒として、あるいは、教員として生き抜いてきたわけであり、今思うと、なにやら無我夢中であつたような気がします。

「誠心誠意」こそ、私が親から授かつ

んをはじめ、同窓会の方々や勤務した職場の上司、そして多くの同僚の方々のご支援やご協力によるものと、深く感謝をいたしております。本当にありがとうございます。心からお礼を申し上げます。さらに、夕陽会九十年の意義ある年を迎え、重ねて教育の問題解決に全力を尽くす決意を新たにいたしております。この度の受章では、皆様方からさつそくの祝意を頂き、大変恐縮いたしております。ご高配に感謝いたして、厚くお礼を申し上げます。結びに、夕陽会のご発展と会員の皆様方のご健勝をご祈念申し上げます。

た貴重な財産であり、生涯のモットーであります。生徒や地域父母、先輩や同僚の皆様へ恵まれ、お陰様で、三十八年間、一貫して中学校に勤務することができました。

現職中、やりがいのある仕事を色々させていただきましたが、そのひとつに、夕陽会本部情報部長があります。四年前で十二号の編集に携わりましたが、この欄に自らも寄稿させていただくことになろうとは思ひも寄りました。

ここに、改めて感謝の念を表し、夕陽会のさらなる発展を祈念申し上げます。



○中学校教育六十年記念教育功勞者表彰

## 仲間を支えられて

函館市 橋田 恭一

(昭和39年卒)

昨年十月、東京国際フォーラムにおいて、中学校教育六十年記念教育功勞者表彰を受賞いたしました。皇太子殿下をはじめ、衆参両院の議長、文部科学大臣そして、全国中学校長会東京大会に出席の現職の校長先生方三千余名の臨席の下で表彰式は、厳かな雰囲気の中で挙行され、身の引き締まる思いが致しました。

受賞に際しましては夕陽会川島会長様はじめ会員皆様から心温まるお祝いの言葉をいただきました。

この度の受賞は、お力添えをいただいた多くの皆様のご支援の賜物と深くお礼

○北海道教育功績者表彰

## 巡り合わせに感謝して

函館市 武田 隆雄

(昭和46年卒) 函館市立駒場小学校長

このたびの北海道教育功績者表彰の受賞に際し、川島会長はじめ夕陽の多くの方からお祝いのことばをいただき、身に余る光榮と感じております。

私の教職人生は、昭和四十六年、石狩管内当別町の学校に赴任したことに始まります。その後、恵庭市や函館市などで四つの学校に勤務、そして網走教育局を皮切りに五つの教育局での勤務を経て、再び学校に戻り、退職の年を迎えました。

この三十七年間は、子どもたちはもちろん多くの方々との出会いがあり、さまざまなご教示やご支援を頂戴してきま

申し上げます。

とりわけ、函館市中学校長会で苦楽を共にした仲間の方々や、特に退職同期六人の強力な支援を忘れることができません。函館市中学校教育の質の向上と長年積み残されていた課題の解決を目指して、定例研修会での忌憚のない意見交換、そして日常的に行われていた情報交流が同期七人の結束を強め、課題解決に向けて大きな力を発揮することができました。このことが今回の受賞に結びついたものと思っています。重ねて、皆様方に心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

した。とりわけ、夕陽の方々にはその時々に変化ある世話になりました。函館を遠く離れた土地では、必ずと言っていいほど「センセ、夕陽かい？」という言葉から会話が始まり、翌日から旧知の仲であつたかのようにお付き合いをしていただきました。支えてもいただきました。

たまたま、この受賞の榮に浴したのも、このように多くの方々との出会いとお力添えがあつたからであり、その「巡り合わせ」に感謝しているところです。紙面をお借りしてお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。



○ 稚内市市政功労者表彰

## 奇蹟が奇蹟を呼んだ受賞

札幌市 今 野 隆 二

(昭和22年卒)

平成五年急性心筋梗塞で倒れ、奇蹟的に助けられ、担当医から拾った命です。稀なことと言われました。再び予想もしなかった奇蹟のような受賞に当たって

「生きていてよかった」というのが実感。多くの方々の激励と支援、協力の賜ものと厚く御礼を申し上げます。

受賞式の中で市における永年の教職生活、十二年間の市教育委員、最も大きな実績は現職時代からの市民講座（絵画）文化協会長、美術の公募団体の創立と二十五年間の会長（朝北美術協会）この会を通して数多くの道展入選者の育成、そ



○ 神山茂賞

## 教育実践の延長線として

函館市 近 堂 俊 行

(昭和33年卒)

この度「神山茂賞」を受賞し、喜びと同時に大変な重みを感じております。

それは恵山町史編纂の過程で、神山茂先生の編著「函館教育年表と幾つかの著作に触れ、先生の業績の偉大さと奥の深さに心が揺さぶられたからであり、併せて、この賞を設定（S63年）した財団法人函館文化会への授賞の趣旨や発案された神山茂郎氏ご自身から、ご尊父のお仕事ぶりや郷土愛をお聞きしたからであります。「神山賞」の候補。私は郷土史の研究をしている者ではありません。ですから、このお話があった時、正直驚きました。

んなことが受賞の対象になったことを知りました。生活、指導者でありたいと教師になったときの夢が実現しました。いまは四十数年、稚内市および宗谷管内が活動の拠点が四年前、通院のため札幌に転居しました。十年間毎月稚内より通院も限界を感じたのが理由です。受賞にあたって数多くの方々から御祝の激励を承りました。感謝。現役続行。

唯、私は恵山町に赴任した時、教職最後の学校でもあり、心に残る教育実践をしたかったのです。子供たちに「恵山の美しい自然・特異な歴史と産業・先人の労苦と智慧を学ばせたい。そして郷土に愛着を持つ大人になつてもらいたい。そんな思いから「社会科副読本」「ふるさと民話」などの執筆・実践をしました。授賞の対象となりましたのは町史編纂と共に、これらの教育実践、父母・子供たち向けの「恵山むがしむがし」の連載など一連の活動だとお聞きしました。「神山茂賞」心から喜び頂きました。



## 平成の会活動

網走連合支部 副研修部長 中 村 啓 之

(昭和56年卒 斜里町立以久科小学校教頭)

今、オホーツクブルーの海は一面真っ白く厚い流水に覆われ、寒さも一段と厳しく、オホーツクに住む我々にとつてこれこそ身も心も凍り付くような日々を過ごしております。そんな中、そのぶ厚い流水をも解かさなければかりの情熱にあふれ、研修に邁進している若々しいメンバーを紹介します。

平成十八年一月、夕陽会網走連合支部総会の折、懸案事項であった若い会員の参加を増やすための具体的な取組が話題となりました。「若い会員特に平成卒の会員が増えつつある状況を肯定的に捉え、網走連合支部の目玉としての活動を展開できないか」という支部長からのアドバースもあり、「平成の会」がスタートしました。

これまで三回の研修会を開催し、参加者全員による日頃の実践のレポートの交流や先輩教師を講師に研修講座を行いました。研修の後は懇親の場も設けられていて、研修の場よりもっと熱い語らいが繰り広げられました。



まだ活動を始めたばかりで、人集めに苦労しているような状況ですが、肩肘張らず日常の実践を交流し合う中で裾野を広げて行ってもらえればと思っています。「平成の会」をリードしている寒河江先生・佐野先生から今後の活動のポイントを聞いていますので紹介させていただきます。

●「夕陽だけを共通点とする超党派の集まりであること」

校種の違い、専攻の違い、所属する研究団体の違い。多々ありますが、せっかく同じキャンパスで学び、同じ地域にいるのですから、その縁・つながりを大事にして学びを続けていきたいです。これが「平成の会」の原動力です。

●「昭和卒の先輩のバックアップをいただいていること」

毎回、先輩の助言があつてこそその学習会になっています。平成卒有志の牽引力＋昭和卒先輩の後押し＝網走連合支部のパワーなのではないでしょうか。

●「まだまだ発展途上の会であること」

学習会で厳しい指摘を出しあえるわけではなく、まだ現段階としては実践を持ち寄って認め合うといったところですが、会を立ち上げたことに意義があり、一歩ずつ進めていければと思います。何かと教員に対する風当たりが強いご時勢。こうしたつながりをもつことは、メンタルヘルス的にも意味があるのではないのでしょうか。

# 会務報告



幹事長

須藤 由司

(昭和52年卒)

## 《一般会務》

12・1 夕陽記念館（北方教育資料館）

改修工事が着工する。（函館）

第九回夕陽音楽祭実行委員会に

川島会長・須藤幹事長が出席す

る。（函館）

3 本間謙二北海道教育大学学長・

理事等と五分校友会長の懇談会

に川島会長が出席する。（札幌）

14 函館校卒業予定者を対象に夕陽

会入会説明会を開催する。

16 関東ブロックの支部運営等につ

いて東京・千葉支部役員会と川

島会長・須藤幹事長が懇談する。

17 北海道教育功績者表彰受賞を祝

う会に川島会長・中瀬副会長・

須藤幹事長が出席する。（札幌）

19 夕陽記念館改修工事の進捗状況

を川島会長等が視察する。

20 本部会報第193号を発行する。

前納会員等に夕陽会九十周年記

念式典・祝賀会の案内を送付す

21 杉浦副学長（函館校担当）と母

校・同窓会の現状などについて

川島会長・須藤幹事長が懇談す

る。（函館）

1・7 指導主事等候補者激励会を開催

する。（札幌）

2・8 函館校地域連携センター長らと

須藤幹事長が懇談する。（函館）

12 第二回夕陽記念館改修整備活用

検討委員会を開催する。（函館）

15 （仮）日胆ブロック会議（胆振連

合・室蘭・苫小牧・日高支部）

を主催する。（苫小牧）

21 本部顧問・第八会長瀬川直光殿

の葬儀で川島会長が葬儀委員長

を務める。（苫小牧）

22 本部役員が弔問する。本部・各

支部等が弔意を表す。（函館）

25 吉田洋一北海道教育委員会教育

長と五校同窓会長の懇談会に

川島会長が出席する。（札幌）

28 夕陽記念館改修工事完了検査に

須藤幹事長が立会する。（函館）

夕陽記念館改修工事について大

学本部施設課・函館校担当職員

と川島会長・須藤幹事長が懇談

する。（函館）

29 夕陽記念館竣工にあたって川島

会長・須藤幹事長・土谷副幹事

長・武田厚生部長が視察する。

《支部総会・祝賀会・個展等》

12・3 札幌支部教育懇話会に川島会長

が出席する。（札幌）

7 室蘭支部懇親会に土谷副幹事長

が出席する。（室蘭）

15 東京支部懇親会に川島会長・須

藤幹事長が出席する。（東京）

1・6 特殊教育諸学校支部総会・懇親

会に川島会長・須藤幹事長が出

席する。（札幌）

8 夕陽指導主事等会新年懇親会に

須藤幹事長が出席する。（札幌）

9 高等学校支部総会・懇親会に川

島会長・須藤幹事長が出席する。

12 （札幌）

（昭和52卒体育研究室同期会に祝

意を表す。（函館）

26 後志支部受賞祝賀・退職激励会

に川島会長が出席する。（岩内）

26 網走連合支部総会・懇親会に須

藤幹事長が出席する。（温根湯）

27 胆振連合支部総会・懇親会に土

谷副幹事長が出席する。（室蘭）

8 函館市支部顧問会議に川島会

長・須藤幹事長が出席する。

9 日高支部総会・退職激励会に須

藤幹事長が出席する。（函館）

藤幹事長が出席する。

9 （新ひだか）

9 渡島支部支会長・幹事長会議に

川島会長が出席する。（函館）

9 渡島支部勇退者激励会に川島会

長が出席する。（函館）

15 苫小牧市支部退職激励会に須藤

幹事長が出席する。（苫小牧）

16 檜山支部総会・先輩を送る会に

川島会長が出席する。（乙部）

22 函館市支部受賞祝賀会に川島会

長・須藤幹事長が出席する。

23 楽友会主催伊藤勝志教授（昭和

44年卒）退官祝賀会に祝意を表

す。（函館）

## 夕陽会は 函館校並びに函館校の学生を 応援しています！

夕陽会は、将来の会員となる函館校の学生・院生並びに函館校の就職対策や部活動の全国規模の大会への出場、地域でのボランティア活動、学習・研究成果の発表会等への助成や授賞、人的支援を行い、各種活動の奨励と支援を積極的に行っています。また、様々な機会を通して、在学中から同窓会への関心と意識を高めるよう広報活動等を行っています。

### ●教員採用試験対策講座への支援

○剣道部（女子）全国学生選手権大会出場

○陸上部全日本学生選手権大会出場

○バレーボール（女子）全日本選手権大会出場

○モダンダンスクラブ全国大会出場・定期発表会開催

○美術研究室学生作品展開催・会長賞贈呈

○吹奏楽部定期演奏会開催

○ワッショイはこだて（函館港祭）に学生・函館附属学校園

幼児児童生徒が参加

○第十一回サマースクール・イン・函館開催（障がいのある

子どもの夏休み中の余暇活動支援）

※平成十九年度北海道新聞ボランティア賞受賞





## 新装間近 夕陽記念館 「保存から活用へ・地域共に歩む」

検討委員長・厚生部長 武田 誠  
(昭和46年卒)

昨年十二月より本格的に進められてきた「夕陽記念館改修工事」も、いよいよ大詰めを迎え、細部の修理・修繕の段階となりました。この改修にかかわって、夕陽会本部では、今後の活用の在り方を方向付けるため、昨年九月に「夕陽記念館改修整備活用検討委員会」を立ち上げました。

数多くの貴重な教育関連資料や師範学校から教育大学に至る歴史、夕陽会員の思いや歩み、会員芸術作品などが收藏され、展示されてきました。

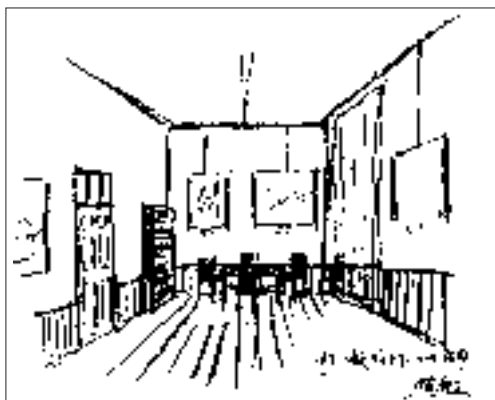


一階「教育の歴史」より

従来の分野別展示を踏襲しながら、より親しみやすく、開放的な記念館となるよう願っているところです。  
そのため「保存から活用へ・地域と共に歩む」を軸に検討を進めています。

### 地域の文化活動を応援する だれでも使えるギャラリーを

一階廊下の壁面を活用して、学生や夕陽会員、地域一般の方々などに広く門戸を開放し、個展・グループ展ができるようにするなど、地域の文化活動を応援する記念館を目指していきます。



一階ギャラリー イメージ画



改修された一階廊下

### ゆっくりくつろげる 懐かしい語らい「コーナー」を

重厚な階段手すりに触れながら、創立当時の歴史を彷彿させる階段を昇り切ると踊り場となります。その空間を再生しリニューアルしたテーブルとイスの配置、ビデオやDVD視聴ができるテレビの設置、書棚の設置などを検討しています。実現の折には、ゆっくり身体を休め、懐かしい映像や会員の出版書籍などで、これまでの歩みを振り返ってみてはいかがでしょうか。地域への発信ともなります。



二階談話コーナー イメージ画



改修された二階踊り場

### 輝かしい夕陽の歩みを

記念館に寄贈された多数の会員作品や資料は「夕陽の足跡」「夕陽の芸術」として展示されてきました。改修に当たり、展示用ワイヤーを取り付け、時に展示の交換や特別展などでもできるようにしていきます。



貴重な作品や夕陽会歩みの資料が多数收藏

以上、検討委員会構想の一端を紹介しましたが、

- ・生涯学習や地域づくりへの対応
- ・学生の教育、研究への支援
- ・改修後の望ましい管理・運営
- ・函館校地域連携センターとの連携
- ・（見学会・学習会・公開講座など）
- ・函館校校舎の一部活用
- ・（地域交流室・資料や作品等保存室）

など

まだまだ検討すべき事項があると思います。当面、列記した視点に立って、できるところから一つ一つ吟味しつつ、会員皆様の思いをつなげるよう実現に向けて努力する所存ですので、よろしくご理解いただきますようお願いいたします。

## 故 上田嘉一氏 略歴

明治43年10月25日生（享年95歳）

## 【学歴・職歴】

大正14年 北海道函館師範学校本科第1部入学

昭和5年 同校卒業（第13回）

函館市松風尋常小学校訓導

以後、尋常高等小学校・庁立中

学校勤務、函館市教委指導主事

18年 北海道第二師範学校教諭・教授

23年 北海道学芸大学助教授

34年 函館市立港・中央・桐花・的

場中学校長

退職後、教育大学函館校・専門



## 【受賞歴】

○勲五等双光旭日賞・北海道スポーツ賞・

函館市功労賞・函館市文化賞

○日本体育協会・北海道教育委員会・函

館市より功労賞等

○体操・弓道・スキー・バスケットボー

ル競技において功績表彰等

## 【公職等】

○北海道中学校長会副会長・渡島中体連

会長・函館市中体連理事長

○亀田市・函館市各種審議会委員

○函館市体育協会副会長

○夕陽会会長（昭和45年6月～51年7月）



## 恩師・上田先生を偲んで

教え子 山尾 正（昭和23年卒）

**出会い** 上田先生との出会いは、昭和十八年四月、北海道第二師範学校予科一年入学以来約六十五年になる。

予科一年一組、二年二組の担任として二年間、ご指導いただいた。

**個人相談** 学期末になると、広い教室に上田先生が、私たち一人一人を出席番号順に呼び出し、「学習成績」「操行」「寮生活」「友人関係」「家族状況」などについて厳しくまた暖かいご指導をいただいた。まさに現代の教育相談に匹敵するものであり、この時代の趨勢から考えて上田先生の教育者としての使命感、情熱、ご努力に頭が下がる思いである。

**新進気鋭の体育教官** 「徒手体操」「器械体操」「籠球」「スキー」等々の指導を

うけた。特に「徒手体操」は一時間一杯休むことなく厳しい号令のもとに続けられた。私たち生徒の間では「殺人体操」とささやかれていた。

**援農時代** 昭和十九年 予科二年 私

たちは、十勝に援農に派遣された。私は酒井君と二人、音更町の畑作農家、十五町歩で汗にまみれて働いていた。上田先生がゲートル、リュックサック姿で激励のために尋ねてこられた。今考えると、全く車のない時代、交通機関の整備されていなかった時代、先生はどのようにして援農生のある農家一軒一軒をまわられたのか、宿泊はどのようにされていたのか？いまさらながら当時の先生の情熱、その偉大さに強い感銘をうけた。今となつては確かめるすべもなくなったが……。

**還暦祝い** 昭和四十六年 函館湯の川松の寮で上田先生の還暦祝いをしようというところで、予科一年入学同期会第一回を開催した。上田先生に記念品として「三箇三郎先生」の作品「駒岳」を贈った。先生は大変喜ばれていつも大切にしているよと言われていた。

**百歳まで生きよう** 昭和五十二年予科一年入学同期会第二回開催、昭和二十三年卒同期会との関係で以後隔年実施を決定、一組担任上田先生、二組担任石田公道先生のご出席をいただくことにした。上田先生は毎回お

元気で出席されていた。いつも毅然とした態度で「自分の体は自分で守り鍛えて、百歳まで生きよう」といつも私たちにハッパをかけていたことを昨日のごとく思い出す。

**卒寿の会** 平成十四年、上田先生の卒

寿の会を兼ねて、第十一回予科一年同期会を開催することにした。残念ながら上田先生は体調をくずされ初めて欠席されることになった。参加者全員で一日も早く元気になれることを祈った。その後先生はお元気になられ九十歳をすぎたなお元気で弓の指導をされていた。

紙数の制限もあり、先生のすべてを語ることはできない、私が強く印象に残っている幾つかのことについて紹介しお許しをいた、きたい。

先生は、師範学校時代は勿論のこと、師範学校退官後、函館市教育委員会指導主事、函館市中学校校長、第五代夕陽会会長として、その毅然とした凛々しい態度、はきはきとしたお話しは、常に私たちの生きる指標としてかけがえのない存在でした。

先生、私たちは先生の数々のご教訓を生涯忘れることなく生き抜いていきます。

昭和31年1月  
蔵王スキー場 函館一行（左から3人目）

平成20年度

# 全国支部長会議，本部総会， 夕陽会創立90周年記念式典・祝賀会

❖ 期 日 平成20年6月21日（土）

❖ 開 催 地 函 館 市

○平成20年度

全国支部長会議

11：00～13：00

ロワジールホテル函館（旧函館ハーバービューホテル）

○夕陽会創立90周年記念式典

14：00～15：00

ロワジールホテル函館（旧函館ハーバービューホテル）



多くの会員の  
ご参加を

式典部長 渡利 正義  
(昭和39年卒)

会報一九三号にてお知らせいたしました夕陽会創立九十周年記念式典を担当させていただいております。平成十八年十一月に設置された夕陽会創立九十周年行事・事業実行委員会では一年半あまり着々と準備をして参りました。

母校においては、今春の新四年生が卒業する来年には九十年間継続してきた教員養成課程がその任を終え、新しい道を歩み始めます。その転換期にふさわしく過去を振り返り、なつかしむとともに、未来に期待をつなげるような式典にと考えております。

六月二十一日には、十四時から開始の記念式典終了後に、総会、その後会場を移して記念祝賀会を開催することから、式典の実施にあたって時間的制約等がございますので、内容をコンパクトにし、かつ趣旨が十分生かされるよう一時間の予定で立案しております。また、会場も広さや形態からの制約もございますが、できるだけ多くの方々にご参列をいただきたく五百席程度を準備いたします。

式典の流れとしては、奇を衒わず、粛々と進行し、後半には夕陽九十年の歴史の映像での紹介や現役学生による演奏も予定しております。また、会場には各支部出品の夕陽写真パネルを展示しますのでお楽しみください。

九十年間、営々と築き上げてきた先達の偉業にふれるとともに、新しい道を歩み始めた母校にエールを送るひとときを共に過ごしたいと思っておりますので、多数ご来場くださいますようお願いいたします。

## ●式典・祝賀会の申込

・前納会員、OB会員はご案内済みですが、四月末日まで申し込を受けております。

・現職会員へは、四月早々に各支部へご案内いたしますのでご参加ください。



# ○平成20年度 夕陽会総会

15 : 30～16 : 30

ロワジールホテル函館（旧函館ハーバービューホテル）

ロワジールホテル函館  
（旧函館ハーバービューホテル）



移動します

函館国際ホテル

# ○夕陽会創立90周年

記念祝賀会 会費8,000円

17 : 30～20 : 00

函館国際ホテル

❖夕陽記念館オープニングセレモニー 5 / 24（土） 11 : 00～ 夕陽記念館前庭

❖第 9 回 夕 陽 音 楽 会 6 / 14（土） 18 : 00～ 函館市芸術ホール

## ☪ 同窓会、同期会のご案内 ☪

会等の名称	開催日時・会場	代表幹事
獅 子 の 会	平成20年 6 月21日（土）20時30分から 根ぼつけ（松風町）	田 川 眞 熙
北海道第二師範学校「予科会」	平成20年 5 月28日（水）17時から 啄木亭	遊 佐 悦 大
昭和33年 2 類卒33会	平成20年 6 月20日（金）18時から ホテルテトラ（梁川町）	小 林 周 次 高 村 昭 三
31 会	平成20年 6 月21日（土）21時から 会場未定	高 屋 泰 男
夕 陽 39 年 の 会	平成20年 6 月21日（土）20時30分から 国際ホテルラウンジ	坂 口 直 義
昭和40年卒夕陽40会	平成20年 6 月21日（土）20時30分から 酔族館（梁川町）	絹 野 重 治



## 「第九回夕陽音楽会」開催にあたって

実行委員長 穴 戸 雄 一  
(昭和48年卒 市立函館高等学校)

十四年に一度の「夕陽音楽会」を、来る六月十四日に芸術ホールで開催します。第九回目となる今回は、奇しくも「夕陽九十周年」の年と重なることもあり、その記念式典の一週間前に実施することになりました。

❖初回の無料開催 過去八回の音楽会は、有料で実施してきましたが、今回は九十周年ということもあり、本部のご理解とご支援のもと、入場を無料といたしました。

楽器や演奏者等の運送経費の関係で、有料やむなしとしましたが、今回は記念となる年でもあり、私たち実行委員が広告協賛をいただきに回ったり、経費の節減を図るなどで実現にこぎつけました。

❖内容も質・量ともに充実 毎回恒例の「夕陽合唱団」は、函館校音楽科同窓会である『楽友会』のメンバーを中心に構成されますが、今回は九十周年にちなんで九十名の大合唱団編成をめざしています。一般の会員の方も大歓迎ですので、是非ご参加下さい。また、定番のピアノ演奏は、永らく音楽科教授を勤められ、平成十五年度に定年退職された会澤教授の功績をたたえて設立された『会澤賞』の、第一回と第二回の受賞者が行います。

さらに、昨年のNHK音楽コンクールで全道大会に出場した函館市立北美原小学校と同じく吹奏楽コンクールで全道大会出場の附属函館中学校が在所帯で出演します。また、創立以来十八年にわたって市民手づくりのオペラ公演を続けている函館市民オペラの会が初出演します。

❖入場整理券の申し込みを 当日会場において下さる方には、予め整理券をお渡しします。今後、夕陽会を通して申し込みをお受けしますのは是非お求め下さい。

❖ポスター・チラシも完成 今回の演奏会のポスターとチラシはすでに完成し、現在、各学校等や会員に配布する作業や整理券配布の準備を進めています。

【お問い合わせ】附属小学校 三浦まで

# 第九回夕陽音楽会

日時 平成20年 6月14日(土) 開演 18:00

会場 函館市芸術ホール 入場無料(要整理券)

主催 北海道教育大学<sup>せきようかい</sup>夕陽会(北海道教育大学函館校同窓会)

## プログラム

♪混声合唱《夕陽混声合唱団》

「ハレルヤ」(ヘンデル) 他 指揮: 大 村 義 美

♪バリトン独唱…シューマン歌曲集「ミルテの花」より

独唱: 佐 藤 圭 佑

♪リコーダー合奏《ムジカ・フィオーリ》

「ソナタヘ長調」(ヘンデル) 重奏: 穴 戸 良 子 ほか

♪ピアノ二重奏……ラフマニノフ「組曲第2番」より

重奏: 藤 嶋 恵 子・杉 村 千 尋

♪ピアノ独奏……ムソルグスキー「展覧会の絵」より

独奏: 吉 本 有 佑

♪吹奏楽《附属函館中学校音楽部》

「シフォニエッタ」 他 指揮: 嶋 田 歩

♪児童合唱《函館市立北美原小学校合唱団》

組曲「虹がなければ」より 他 指揮: 山 崎 輝 美

♪オペラドリームズ《函館市民オペラの会》

「トゥーランドット」他 指揮: 玉 手 道 男



## 渡島支部だより

渡島支部長 黒崎 勇司  
(昭和49年卒 北斗市立沖川小学校長)

会場をつんざくような太鼓の音と夕陽の法被姿とともに入場したのは、北斗市立大野中学校の山根知久夕陽会員。その勇姿をご来賓や終身会員の方々は、懐かしそうに見つめていました。「オス！」の

一声に会場は一瞬静まりかえるものの、すぐに大きな歓声と拍手の渦となりました。その後、来賓の方々と終身会員がステージ上で寮歌を大合唱し、若かりし頃に思いを馳せました。平成二十年二月九日(土)に開催された「勇退者激励・感謝の会」の一齣です。

今年度の勇退者は、十一名で、渡島支部の参加会員百八十三名の盛大な拍手の下にご勇退の運びとなりました。昨年度より、団塊の世代のご勇退が始まり、それぞれ渡島の教育に大きく貢献されてきた方々ばかりで、その功績は、各界の誰もが認めるところでもあります。渡島支部にとっては大きな痛手となりますが、今まで渡島支部のために尽力されましたことを考えますと心より感謝とお礼を述べたいと思います。

渡島支部の二大事業は、年度末の「勇退者激励・感謝の会」と年度初めの渡島支部総会後の「大懇親会・新会員歓迎会」です。今年度の「大懇親会・新会員歓迎会」は、五月十二日(土)に法華クラブで盛会に開催されました。十二名の新会員をお迎えし、新会員の初々しい挨拶が

あり、恒例の大抽選会も行われました。新会員の挨拶の中には、教師としての頼もしい言葉があり、やんやの喝采を浴び会場を沸かせていました。

渡島支部には、十一支会があり各支会ごとに総会・懇親会が開催されています。その時、ご招待をいただき参加させてもらっています。各支会には、大歓迎をしていただき改めて同窓の絆の強さを感じる次第ですし、各支会がこんなにも力強いものならば、渡島支部も本部の磐石であると認識いたしました。今年度は、夕陽記念館改修工事や教育支援基金等で各支会にご協力をいただいたことが多々ありましたが、各支会の迅速な取り組みにより、目標を達成できたことは渡島支部にとっても大きな励みとなりました。

次年度、夕陽会創立九十周年を晴れて迎え、各種の記念事業が予定されています。平成二十年六月二十一日には、記念式典・記念祝賀会も予定されています。

渡島支部は、四十五周年くらいと推算されます。明確な記録がないので、三十三周年記念誌を参考にさせていた。だき、逆算をしました。渡島支部五十周年事業を睨みながら、渡島支部会員五百六十一名と終身会員二百六十八名の力を結集させて、本部九十周年事業の成功に向け微力ではありますが、渡島支部役員全力で取り組んでいきたいと思っています。



## 青森津軽支部だより

青森津軽支部長 白取 清彦  
(昭和46年卒 青森市立東陽小学校教頭)

本州北端の青森県、私たちの支部は、東の八甲田山から西の岩木山まで。青森・弘前市を含む四市八町村には、函師から教育大までの卒業生百五十余名が居住しています。

近年、かつての私の勤務校や同僚の子から新生函館校への入学の知らせを聞くと、うれしくなります。函館の地に憧れて海を渡って行くのは、函師時代に学んだ諸先輩や我々の世代の心情と同じなのでしょうか。

私が元支部長の西谷市郎氏(昭和18年卒)、前支部長の中谷匡利氏(昭和42年卒)より支部長を引き継いで五年。教育大学を卒業した団塊世代の私たちも、いよいよ定年退職を迎えるころになりました。

現会員は小中と特別支援学校が中心ですが、若い世代は徐々に公立病院や民間会社にも勤める者も出てきています。教育行政にも同窓の名が散見されるようになり、校長・教頭も二桁を超えました。

昭和五十年代から県全域で支部再生への動きがあり、南部・西北五・津軽支部の幹事長会議がもたれました。青森県教育委員会教育委員長をされた本部副会長奥寺恒夫先生(昭和17年卒)にもお出で頂き、全県での総会をもったこともあり、まだ若かった私には、一同に会した県内の錚々たる校長先生方の顔ぶれが、強く印象に残っています。

平成元年、新支部長に西谷市郎先生が就任されて組織会員加入への取り組みを一段と強化されました。当時の本部幹事長小林信夫先生、松本征八先生や県教育委員会にいた中谷匡利先生のご指導で平成六年・七年と県教育会館で総会がもたれました。総会には同窓の全員に案内することを決めました。来賓には本部の松本征八先生ほか数名が出席されましたが、参加した人数は、期待するほどでなかったと記憶しています。

その後、中谷匡利先生が支部長になられ、特別支援学校を中心に参加者が増えました。会長の安島進先生はじめ多くの方々が本部からの来賓として出席してくださいました。だが、古い会員と現会員の面識が全くなかったためか、未組織会員加入への取り組みには難儀し、解決策について縷々話し合いがもたれました。

しかし、私が支部長になってここ数年、総会の参加数に漸減の様子が見え、その対策に苦慮しています。支部の幹事長に湯田秀樹氏(平元年卒)をお願いし、若い人たちにも魅力ある支部組織のあり方と総会のもち方について工夫していきたいと思っています。

最後に、本部から何度となく青森に足を運ばれ、支部発展へのご支援を頂いた方々や支部の再生に尽力された諸先輩に深く感謝して筆を置きます。



# 支部の歴史をふりかえって



## 支部創立の謎を探る

### 札幌支部史を探索委員会の報告から

札幌支部長 小西雅夫  
(昭和47年卒 札幌市立北辰中学校長)

#### ❖支部史を探索委員会の立ち上げ

夕陽会札幌支部は、今年支部創立八十年目を迎えました。くしくも夕陽会本部創立九十周年の記念すべき年と重なることになりました。

札幌支部では、支部結成時期を特定することが、長年の懸案事項になっていました。そのため、平成十五年三月の支部総務会で、支部の歴史を調査する委員会の必要性が議論され、同年四月の札幌支部総会において、「夕陽会札幌支部史を探索委員会」の立ち上げが承認されました。

委員長には、それまで札幌支部長をお務めになっていた野田孝夫氏（昭和43年卒）が、副委員長に、白楊小学校長・浅野健（昭和41年卒）と栄東小学校長・佐々木征治（昭和41年卒）の各氏が就任し、事務局を幌北小学校に置いて調査活動を開始しました。この委員会では、歴代支部長様に顧問をお願いし、情報収集で協力をお願いしたりご助言を得ながら活動を進めました。そして、同委員会からは何度かの中間報告があつて、平成十七年一月十七日に、支部創立を昭和三年と明記した答申が提出されました。

#### ❖調査活動で明らかになったこと

この委員会の活動で、支部創立の黎明期の様子が明らかになってきました。そのうちいくつかを、順不同ながらご紹介いたします。

・7 支部役員会において、当時支部長であつた青柳史匡氏（昭和42年卒）が作成した原案を検討し、できる範囲でまとめることにした。いずれにしても活動推進の基準は、支部結成時期を特定することであり、函館校本部夕陽会記念館（資料館）まで出向いての資料収集が最優先事項であつた。

・1 手探りの情報収集であつたが、平成十四年十一月二十六日の白石・厚別地区合同懇親会で、黒澤熙隆氏（昭和28年卒）より手書きの「沿革年表」をいただくことができて、貴重で確かな情報が得られました。

この年表には、第二回生高松時雄氏を中心となつて、昭和三年に定山溪で会員二十名による初の会合を開いたとの記述がありました。

・2 平成十五年三月二十七日に笹川雄吉氏（昭和19年卒）とともに、諸留安之氏のご自宅に伺い、当時の記憶をたどってもらいましたが、なかなか、新しい（古い？）情報を得るまでには至りませんでした。

・前記、黒澤氏提供の「沿革年表」に、小樽支部四十周年記念行事の記事があり、その式典に招待されたとの記録があつたので、調査時点当時の小樽支部長に依頼して、小樽支部の大先輩などの追跡調査を行っていただきましたが、記録も記憶もないという回答でした。

平成十六年六月十一日、再び、函館校本部夕陽記念館に出向き、情報収集を行いました。第四展示室に展示されていた本部会報第十号に、「札幌支部」としての記載があり、支部活動を行っていたことが確認できました。その内容は、

- 1 名称 函館同窓會札幌支部
- 2 設立年月日の記載なし
- 3 範囲 札幌市内及び付近近住卒業生並びに・・・
- 4 役員 支部長外幹事数名顧問三名
- 5 会員 四十五名

また、別号に、「寮歌とわたくし」と題して、佐藤豊二郎氏の投稿文が綴られていました。文末には、「おねがい・・・最近、夕陽会札幌支部長（四百名に一寸キレル）に遮二無二推された・・・同期諸兄の心からなるご協力ご支援をおねがいしてやみません」と記されていました。

・夕陽会本部副会長の中瀬裕義氏（昭和34年卒）から提供された、昭和三十九年母校五十周年記念会報の支部日より「わが支部のあしあと」では、当時の支部長である藤門省平氏が、支部の活動状況などを紹介しています。

それによると、昭和年代に入つて、ようやく同窓の数も目立つようになつてきたこと、母校の恩師である、加勢藏太郎先生が、北海道庁視学官になつたとき、期せずして同窓の集まりをもつたこと、その後もこの先生を囲みながら懇親の集まりをもつようになり、お互いに励まし合つたこと、こうした集まりが、いつとはなしに同窓会となり、札幌支部へと発展したように思われることなどが記載されています。さらに、この時代の支部の代表は、言うまでもなく、太田六郎氏と南忠氏であり、両大先輩は、実によく支部結成のために骨を折ってくれたこと、同窓のために大いに面倒を見てくださったことなどが記載されています。

#### ❖支部創立は昭和三年

上記のように、支部史を探索委員会では、委員の皆さまが、公務多忙を極める中で、支部創立を特定するための調査活動を行い、その結果、札幌支部創立を「昭和三年」とする最終答申が提出され、平成十七年度の支部総会で、このことが承認されました。

前出の「わが支部のあしあと」には、『札幌市の同窓は、いつの時代にも一人一人が持てる力を十分に発揮できるように、その処を得ていようが、得てまいが、常に身を切るような寒風にさらされながら、自己を見失うこともなく、自己を確立するために、ひたむきに研鑽につとめ精進しなければならないのが現実の姿であるように思います』とありました。当時の同窓が厳しい状況下でも、努力を重ねられていたことが、よくわかります。

平成二十年十二月六日に札幌支部創立八十周年記念式典や祝賀会などを開催いたしますが、先輩が、艱難辛苦を乗り越えて築いてくれた、札幌支部の足跡を辿るまたとない機会であり、同窓のこれらの飛躍を誓い合う大切な場にしなければならぬと、心から、そう思いました。

# 支部の歴史をふりかえって

## 夕陽が人を創る

～老いも若きも集う会へ～



日高支部長 中村道明  
(昭和46年卒 新ひだか町立三石小学校長)

夕陽会日高支部の歴史について元支部長の大谷富保氏(昭31年卒)がまとめて下さった。

### ◎日高の教育風土

明治、大正、昭和の初め頃まで日高の陸上交通は未整備であった。主要な交通機関は船であった。二百トン前後の汽船が、函館・日高間を定期的にあるいは、必要に応じて臨時航行をしていた。(浦河町史より)

物、人の交流は函館中心だった。上級の学校を目指す若者も、函館師範が多かったそうである。

昭和十四年日高本線が全線開通しても函館へと傾向があった。

日高管内で教職員の総数に対して夕陽会員の占める割合は、終戦後からずっと二割前後、現在はそれを下回っているようだ。

戦前、夕陽会の組織が存在したという記録はない。

戦後、教育の民主化の波にのって改革が進められた。

その過程で職員団体も結成された。

昭和三十七年北教組日高地区協議会

委員長・近藤忠雄(函師昭8年卒)

副委員長・菅谷好夫(函師昭7年卒)

副委員長・原清重(北二昭19年卒)

当時の役職を載せたのは、実は夕陽会の結成と係わりがある。

当時、近藤委員長は「天皇」と呼ばれていた。組織強化の観点から学閥が絡むことを嫌った。組織の一本化に札幌も旭川、岩見沢も函館もない。学閥の集まりは、組織に対しての不平や批判の場になることを危惧し、お膝下の夕陽会の結成活動を「よし」としなかったのである。

その影響で昭和五十年ころまで、正式な夕陽会は存在しなかった。

しかし、私的な集まりは、各町で、あるいは管内的な研究会の後などに三々五々、盃を交わしていたようである。

昭和三十八年頃、日高教育界にとって非常に残念な事件が起きた。それは日高を二分しての組織内分裂騒動である。

それに夕陽会員が主であった。しかし、懸命な努力によって分裂せずに事を収めることができた。このことも会の結成を阻んだ一因であった。教員個々には内面的にしこりは残ったが、時間の推移とともに消えていった。

このように昭和四十五年ころまで、日高の教育界の流れが、そのまま混迷した夕陽の流れと言っても過言ではない。

◎夕陽会日高支部の結成

このような時の流れのなかで、支部結

成の土壌が固まってきた。

昭和五十二年、それまで夕陽会が、あるようでないような、もやっとした状態を吹っ切るように、浦河小学校長に岩田毅氏(函師昭17年卒)が着任したのを契機に夕陽会日高支部が結成された。

岩田氏を支部長(昭和五十五年まで)に据え、百人あまりの会員が集い、賑やかな総会だったという。

どういう経緯か定かではないが、総会の日取りが、毎年、二月十一日と固定されている。

二代目支部長毛内善三氏(北二師昭22年卒)から、昭和六十三年の支部長坂本康治氏(北二昭24年卒)まで組織固めに力を尽くした。

今までの役職は校長群で占められていた。それを支部長は校長職、幹事長は教頭職という形にし、組織・活動内容の充実に努めた。坂本支部長の下、幹事長大谷富保氏・副幹事長中村泰憲氏(学大昭40年卒)の体制で、このコンビはそれから平成六年まで続いた。

各町支会の集まりを促し、一般会員の参加をめざした。

この頃から、「行動する夕陽・学習する夕陽」のスローガンを掲げ、支部の内容充実を努めた。

校長、教頭をめざす教師にたいする学習会の実施に、力を入れてきた傾向があった。逆に一般会員が、夕陽会を敬遠する大きな原因の一つだった。

そのため、新会員の歓迎会等を慣例化することに努め会員の拡大をも図った。

今年一月若い会員の集いに十五人が参加、先輩の講話を聞くなど学習し、懇親会も盛大だった。というニュースを現支部長中村道明氏から聞かされた。かつて

は、この種の会はなかなか開けず苦慮したことから非常に嬉しい思いだった。

### ◎諸先輩の功績

◇川村清一氏(函師昭5年卒)

昭和三十年に道議会議員に当選し、昭和四十年に日高初の国會議員として参議院議員に当選。以後三期十八年、水産常任委員長も歴任して活躍。平成五年、勲二等旭日重光章を受章する。

◇原清重氏(北二師昭19年卒)

昭和四十二年川村清一氏の後を受け継ぎ、道議会議員に当選。道議会の副議長など道政の中心的存在として活躍。

昭和六十二年、藍綬褒章を受章。翌年六十二才で急逝した。葬儀には、横路知事以下道の幹部、道議会議員の多くが来町。道庁が浦河町に移って来た感があった。

また、同級生であり当時、夕陽会長瀬川直光氏ほか十数名の同級生の方々が函館からはせ参じてくれた。

◇昭和二十年代様似町長に、留目四郎氏(函師大正12年卒)。昭和五十年代く六十年初めにかけて新冠町長に、小野木恒氏(北二昭22年卒)が、それぞれの町の発展に尽力された。

◇何人もの先輩が各町の教育長として活躍した。昭和四十年の日高の職員録に、様似町三好勉氏(函師昭13年卒)・浦河町菅谷好夫氏(函師昭7年卒)・新冠町田島茂房氏(函師昭8年卒)・平取町小島久治(函師昭12年卒)と名を連ねている。以後、浦河町で市川五郎氏(北二昭22年卒)・ト部弘氏(学大昭26年卒)。静内町で菅谷蕃氏(学大昭34年卒)が活躍。現在浦河町で中村泰憲氏が町教育の発展に奮闘している。これからの夕陽会の発展を心から願うものである。

## 前納会費納入会員名簿追加分

相場 みき子 札幌 昭38  
 若狭 博光 札幌 昭42  
 村川 龍介 苫小牧 昭44  
 大原 道子 北広島 昭41  
 古殿 邦彦 長崎 昭40  
 堀川 泰浩 渡島 昭40  
 高橋 美智子 函館 昭38  
 新出 誠 渡島 昭43  
 押澤 郁夫 千歳 昭39  
 (平成二十年三月十四日現在)

## 夕陽会員計報

成田 嘉幸氏 昭30 19・6・8  
 室蘭市宮の森町2の12の17  
 高桑 章氏 昭26 19・7・31  
 札幌市西区発寒7条5の8の10  
 長崎 榮一氏 昭34 19・10・14  
 函館市神山1の24の8 奥子氏  
 小倉 太一氏 昭18 19・11・15  
 札幌市北区屯田4の7の6の39 サタ氏  
 横山 勉氏 昭4 19・12・19  
 伊達市末永町58 哲夫氏  
 以上、前号発行後判明分、  
 石川 陽三氏 昭28 19・12・22  
 登別市常盤町3の45の40 暢子氏  
 谷口 正章氏 昭32 19・12・24  
 森町森川町10の8 宣子氏  
 石澤 正勝氏 昭24 20・1・7  
 森町鳥崎町104の36 シヅエ氏  
 江藤 孝夫氏 昭24 20・1・16  
 北斗市久根別5の4の22 勝江氏  
 中村 泰嗣氏 昭42 20・1・16  
 東京八王子市追分町17の3の201 ヨリ子氏  
 辻田 真一氏 昭13 20・1・17  
 中川郡幕別町札内豊町47の7 一枝氏  
 直江 二郎氏 昭15 20・1・21  
 北見市美山1の155 清子氏  
 吉田 寛氏 昭3 20・1・25  
 函館市時任町15の15 シゲ氏  
 児島 征史氏 昭35 20・2・12  
 新ひだか町静内古川町1の3の27 厚子氏  
 岡田 準介氏 昭23 20・2・15  
 函館市上野町6の10 溪子氏  
 瀬川 直光氏 昭19 20・2・18  
 函館市杉並町23の7 節子氏  
 横山 淳氏 昭33 20・2・22  
 虻田郡洞爺湖町字本町83 孝子氏  
 市橋 馨氏 昭9 20・2・23  
 室蘭市本輪西町3の6の2 稔氏  
 (平成二十年三月十四日現在)

## 平成十九年度研究助成報告

今年度の研究会・研修会等の助成実績がまとまりましたので、お知らせします。  
 (研修部)

- 北海道公立小・中・特別支援学校 女性校長・教頭会研究会
- 北海道書写書道教育研究大会
- 北海道学校図書館研究大会
- 北海道小学校理科教育研究大会
- 北海道中学校理科教育研究大会
- 北海道視聴覚教育研究大会
- 北海道社会科教育研究大会
- 北海道道徳教育研究大会
- 渡島支部研修会
- 十勝支部巴湾会・帯広合同学習会
- 岩手支部大船渡集会
- 空知支部教育講演会
- 上川支部研修会
- 石狩支部研修会
- 小樽支部研修会
- 網走連合支部学習会
- 更別村立更別小学校公開研究会
- 鹿追町小中高一貫教育研究大会
- 北斗市立谷川小学校公開研究会
- 附属函館幼稚園教育研究大会
- 附属函館小学校教育研究大会
- 附属函館中学校教育研究大会
- 附属特別支援学校公開研究会

## 編集後記

◆会報一九四号をお届けいたします。会員の皆様から玉稿や貴重なお写真をお寄せいただきましたことに紙面をお借りし厚くお礼申し上げます。

◆今号の表紙は、二月二十九日に改築された夕陽記念館です。外装、内装共にリニューアルされ、同窓の心よりどこになるものと考えています。

これから展示をどのようにしていくか、検討委員会を中心にして、まとめていく予定です。

また、会報や古い教科書などがありましたら、本部事務局へ連絡いただければ幸いです。

◆いよいよ夕陽会九十周年記念の年になりました。

六月二十一日には、全国、全道から夕陽会員が一堂に会し、素晴らしい式典・祝賀会になることでしょう。

各会員の参加をお願いします。

◆次号依頼…次回「支部だより」は空知支部と釧路支部の予定です。準備をよろしく願います。

(情宣部長 伊勢 昭記 昭49卒)

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。

041 0806 函館市美原3丁目48番6号

北海道教育大学附属函館小学校内

夕陽会本部事務局

電話番号(0138) 46-2235

夕陽会専用(0138) 34-5520

FAX番号(0138) 47-7376

題字 文化勲章受章者 金子賢蔵(鷗亭)氏(昭4卒)